

奄美群島における唐辛子の利用—薬用に着目して—

山本宗立

Medicinal Use of Chili Peppers in the Amami Islands

YAMAMOTO Sota

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
International Center for Island Studies, Kagoshima University

要旨

奄美群島における唐辛子の薬用例を奄美群島周辺地域と比較した。その結果、唐辛子の果実を蒸留酒に漬けて薬とする用法は奄美群島以南から奄美群島へ伝わった可能性があること、腹痛時に唐辛子入りの卵焼きを食べるという用法は奄美・沖縄での特有の利用方法かもしれないことが明らかとなった。

香辛料や野菜として利用される唐辛子。実は世界中で薬としても利用されてきた。奄美群島も例外ではないのだが、唐辛子の薬としての利用はあまり注目されてこなかった。飛び石状に続く奄美群島の島々において、唐辛子の薬用に関する伝統知に連続性があるのか、固有性が高いのか、非常に興味深い。そこで、奄美群島における唐辛子の薬用例を紹介するとともに、奄美群島周辺地域における利用方法との類似点や相違点を明らかにしたい。

奄美大島では、果実が腹痛に、果実を蒸留酒に漬けた調味料が腹痛や風邪、痙攣に利用される(山本 2016)。徳之島では、胃病のときに果実を焼酎に漬けたものが利用されるほか(徳之島民俗研究学会 1962)、腹痛時に唐辛子入り卵焼きが食される(田畑 1979)。沖永良部島では、ワタヤミ(腹痛)の時には「フシュ(からし)を食べればよい」とある(先田 1965)。与論島では、健胃や神経痛、湿布に唐辛子が利用される(山 2007)。

奄美群島周辺地域として、まずは奄美群島から南に連なる島々における薬用例を紹介する。『沖縄民俗薬用動植物誌』によると、沖縄島では下痢や歯痛、頭痛、咳、腹痛、二日酔に、久米島では結膜炎や破傷風に、大神島では湿布や肺病に、石垣島では破傷風に、果実が薬として利用される。台湾では、胸痛や出産、食欲不振、腹痛、二日酔、蛇咬傷に果実が薬として用いられる(山本 2009)。フィリピンのバタン諸島では、果実が関節痛や傷口の薬に使われる(YAMAMOTO 2010)。ミクロネシア連邦では、果実が関節痛や眼病、駆虫、下痢、歯痛、頭痛、鼻水に、種子が歯痛に、葉(花芽や未熟な果実を含む)が眼病や傷口、止血、耳垂れに、花が難産に、根が傷口に利用される(YAMAMOTO 2011, 2012, 2013)。

次に、奄美群島以北の日本における唐辛子の薬用例に着目したい。『鹿児島民俗植物記』には、「果は凍傷薬とする」(鹿児島県鹿児島市)、「寒中食べると、温まる」(島根県)、「保温には粉末を袋に入れて靴に入れておけば足が温まる」(大阪府)、そして『日本の食生活全集』には「湿布して痛みの熱をとる」(佐賀県)、「薬用作物として栽培されてきたものに、にんに

くがある。これは風邪薬、精力増強剤として・・(中略)・・とうがらしも同様である」(福島県)、「しもやけのときは、お湯につけて温め、とうがらしをあてる」(北海道)という情報があった。奄美群島以北の地域では、「寒さ」と関係した用法が多くなる傾向がある。

奄美群島における唐辛子の薬としての利用の特徴を周辺地域と比較してまとめてみたい。腹痛時に果実を丸のみにする、果実を食べるとよい、という利用例は、アジア・オセアニアの幅広い地域で知られている(YAMAMOTO 2011)。唐辛子の辛味成分であるカプサイシン類には抗菌・鎮痛作用がある(岩井・渡辺 2000)。各地で下痢や歯痛に利用されているのも、科学知ではなく経験知によって唐辛子に抗菌・鎮痛作用があることを見出したのかもしれない。唐辛子の果実を蒸留酒に漬けて薬とする事例は、奄美群島、沖縄県、台湾で確認された。中国では生薬を酒に漬けた薬酒が古くから利用されており、日本でも江戸時代の本草学の書籍に薬酒が散見される。唐辛子の果実を蒸留酒に漬けて薬として利用するのは、本草学の影響を受けている可能性がある。しかし、このような利用方法は奄美群島以北では現在のところ知られていないため、奄美群島以南から奄美群島へ伝わったのではないだろうか。上記のような利用方法について、中国南部などの大陸部における調査が待たれる。腹痛時に唐辛子入りの卵焼きを食べるといふ事例は、奄美群島と沖縄県のみで確認されたため、奄美・沖縄に固有ともいえる用法なのかもしれない。ただし、非常に用法が似ているため、片方の地域からもう一方の地域へ利用方法が伝わった可能性を考えておく必要があるだろう。

引用文献

- 岩井和夫・渡辺達夫編 2000. トウガラシ 辛味の科学. 261 頁, 幸書房, 東京.
- 先田光演 1965. 沖永良部島の民間治療法関書. 民俗研究, 2 : 138-163.
- 田畑満大 1979. 徳之島における植物の利用. 徳之島郷土研究会報, 7 : 45-94.
- 徳之島民俗研究学会編 1962. 徳之島民俗誌. 267 頁, 奄美社, 出版地不明.
- 内藤 喬 1964. 鹿児島民俗植物記. 324 頁, 鹿児島民俗植物記刊行会, 鹿児島.
- 農山漁村文化協会 2000. CD-ROM 版日本の食生活全集. 農山漁村文化協会, 東京.
- 前田光康・野瀬弘美編 1989. 沖縄民俗薬用動植物誌. 244 頁, ニライ社, 那覇.
- 山 悦子 2007. 与論島薬草一覧. 10 頁, 私家版.
- 山本宗立 2009. 台湾原住民のとうがらし文化—キダチトウガラシを中心に—. 台湾原住民研究, 13 : 39-75.
- YAMAMOTO, S. 2010. Use of *Capsicum* peppers in the Batanes Islands, Philippines. *South Pacific Studies*, 31(1): 43-56.
- YAMAMOTO, S. 2011. Use of *Capsicum frutescens* in Pohnpei Island, Mokil Atoll, and Pingelap Atoll, Federated States of Micronesia. *People and Culture in Oceania*, 27: 87-104.
- YAMAMOTO, S. 2012. Use of *Capsicum frutescens* in Chuuk Atoll, Federated States of Micronesia. *Tropical Agriculture and Development*, 56(4): 151-158.
- YAMAMOTO, S. 2013. Use of *Capsicum* on Kosrae Island, Federated States of Micronesia. *South Pacific Studies*, 33(2): 87-99.
- 山本宗立 2016. 薩南諸島の唐辛子—文化的側面に着目して—. 『鹿児島島の島々—文化と社会・産業・自然』(高宮広土・河合 溪・桑原季雄編), 72-83, 南方新社, 鹿児島.